

NEWS

## 現地小学校の授業の中の大統領選挙

アメリカの大統領選挙が、目前です。オバマ候補が勝てば「初の黒人大統領」、マケイン候補が勝てば「初の女性副大統領」と、「どちらが勝っても、歴史に残る大統領選挙」になると、「歴史好き」のアメリカ国民は興奮気味です。

その歴史的な大統領選挙が、学校の授業の教材として大いに活用されています。下の写真は、全米の多くの学校で教材として使われている、子どものための新聞「Scholastic News」の5・6年生用の表紙です。10ページ程度の隔週刊の新聞ですが、政治・社会・経済・環境などの社会問題を扱った記事が掲載されています。教室では、英語・社会だけではなく全ての教科の教材として、その掲載記事が使われています。

参考：<http://teacher.scholastic.com/scholasticnews/magazines/edition56/>



この新聞、先日現地の小学校を訪問した折に教室で見かけました。全員に配布されていて「次の授業で使う」とのことでした。政治が教材として扱われているのは、「民主主義を守る子ども達を育てる」というアメリカの公教育の目標のためなのです。

我が家の子ども達も、1年生の時からこの新聞を自宅に持ち帰ってきて、私にその記事を説明してくれていたのを思い出しました。皆さんのお子さんは？ (松本)



NEWS

## アトランタ南部の学校区 学校としての資格を失う?!

公立の学校区に属する小学校から高校までの学校が、「学校としての資格」を失うという、大変な珍事(?)が起きました。

ジョージア州アトランタの南に位置する Clayton County (クレイトン郡) の公立の学校区が、教育機関としての認定 (accreditation) を9月から取り消されました。

この認定取り消しにより、この学校区の学校で学ぶ53000名の児童生徒達は、「正規の学校で学ぶ」とは公的に認められず、様々な不利益を被ることになります。最も深刻なものは、学校成績が正式なものとして他の学校や大学で認められないことです。他の州・学校区の学校への転校や、大学出願時に問題を抱えることになります。また、学校区としても、連邦や州の様々な財政援助が打ち切られる可能性が高くなります。

今回の取り消しは、この地区の認定団体である SACS (Southern Association of Colleges and Schools) が、学校区の学校運営に問題があるとしての長期の調査と勧告の結果の処分です。

全米でも40年ぶりの公立学校の認定取り消しは、学校だけではなく、地域全体に大きな影響を及ぼし始めており、他の学校区へ転出するための引越しの増加、それに伴う地域経済活動の低下などが顕著になってきています。

この事態に、ジョージア州の議会・政府も、私立学校へ転校した児童生徒への授業料の補助、学校区委員会 (教育委員会) への介入など、関与を強めており、今後の動向に注目しています。



「公立の学校が、学校としての資格を失う」という、日本では想像もできない出来事です。

アメリカでの「正式な学校としての資格 (accreditation)」は、「民間かつ非営利の認定団体が、学校を認定する制度 (educational accreditation)」が採用されています。

この制度の下、「正規の学校」となるためには、公立・私立を問わず全ての学校は、全米6地域に分けて設けられた地域認定団体の認定を受けなければなりません。

日本では、「正規の学校」となるには文部科学省や都道府県教育委員会の許可や認可を受けなければなりません。アメリカでは州により学校設立の要件が大きく異なります。そのため、このような認定制度が必要とされているのです。

ところで、皆さんのお子さんが通っておられる学校は認定を受けていますか? 公立は問題ないと思いますが、私立学校ならば確認することをお勧めします。日本の帰国子女受入れ大学の一部で、出願にあたり「認定」の有無を確認する大学がありますので。 (松本)